

令和5年度 学校評価報告書【国立市立国立第四小学校】

学校教育目標	○よく考え進んで学ぶ子 ○自分も友達も大切にする子 ◎正しく判断し行動できる子 ○体を鍛え最後までやりぬく子	重点目標	◎正しく判断し行動できる子
--------	---	------	---------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	分析		改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価		
○よく考え進んで学ぶ子	確かな学力の向上を目指す	学習規律の確立	発表の方法を工夫	「はっきりとした返事・立つ・です」ができる児童の割合を90%以上にする。	A	A	・全学年概ね児童の自己評価は90%を達成しており、発達段階に応じた指導がなされ発表の方法が定着していることが分かる。	・返事ができている子が多い ・「です」や返事を低学年の子もしっかり言っている。 ・自発的に発表している子が行事等でよく伝わってくる。 ・率先して発表できる子と発表が苦手でも次の子へパスができる安心した教室環境が整っている。 ・大きな声やはっきりした口調で発表できる子が限られている気がする。 ・めあてや振り返りについて、意味や意義をどれだけの子が理解しているのかと思う。 ・子供たちの言葉を聞いていると語彙力が高く、表現力があると思う。 ・図書室周辺に児童のおすすめが掲示しており、とても目を引く。大人も読んでみたいと思うくらい絵や文章が上手であった。
			自分の考えを発表する機会の意図的な設定	「話す」「発表する」ことに意欲的に取り組む児童の割合を90%以上にする。	B	B	・「学級での話し合いで自分の意見を伝えている」と肯定的に捉えている児童は、約7割であった。「自分の意見がうまく伝わらない時、言葉や言い方を変えようとしている」について、肯定的に捉えている児童は約8割おり、意欲的に発表ができなくても、伝え方を工夫してよりよく伝えようとしている児童が1割いることが分かる。	
		授業改善	問題解決的な学習過程を重視した授業実践	B	B	・「めあて」について学年によって異なるが肯定的に捉えている全児童の割合は、67.4%と低い。「振り返り」のできるようになったことを「振り返り」で意識している児童は全体の82.5%と前者に比べて高い。このことから、何のためにこれから授業を行っていくのかの目的意識について3割の児童が理解できていないことが要因として挙げられる。		
		学習習慣の確立	定期的な家庭学習による学習習慣の定着	B	B	・8割以上の児童が肯定的な回答をしている。しかし、教員の認識は7割だったことから、児童と教員との間にややずれがある。家庭学習の習慣確立のために今後も対策が必要である。		
		読書活動の充実	定期的な朝読書や読み聞かせを通じた、本に触れる機会の設定	本に触れる機会を増やし、多くの語彙や表現を獲得するとともに文章を読解する力を養う。目標数値・・・80%	A	A	・「本を読むことが好き」について概ね8割以上の児童が肯定的に捉えている。また、約8割の保護者が「図書室の整備や読書指導」について本校の取組について肯定的に捉えている。	
○自分も友達も大切に ◎正しく判断し行動できる子	豊かな言語環境の整備を進める 思いやりを大切に 教育の推進する	「特別の教科道徳」や「生活指導」の時間の充実	言語環境の整備	時と場に応じた言葉づかいに対する児童の肯定的な自己評価の割合を80%以上にする。	B	A	・時と場に応じた言葉づかいについて、9割以上の児童が肯定的な回答をしている。同じく、保護者や教員においても、肯定的な回答が9割近くを占めている。	・日頃から子供たちは挨拶をしっかりとできていると思う。 ・校内ですれ違ったときに挨拶してくる子が少ない気がする。 ・職員室に児童が入るときに挨拶がしっかりできている子が多い。 ・職員室に入る際の言葉について、何をどのように言ったらよいか分かるように掲示してあるのでどの子にとってもよい工夫だと思う。 ・廊下を走る子はおらず、落ち着いて廊下を歩いている。
			あいさつの励行	「あいさつ」に関する取組に対して児童の肯定的な評価を90%以上にする。	B	B	・全ての学年において、8割以上、肯定的に捉えており、率先して挨拶していることが分かる。毎朝、当番の教員が校門前で登校指導をする際、率先して挨拶する姿が学校の良い雰囲気につながっていることから肯定的な評価が高い。	
			実践力の育成	「学校の決まりを守る」児童（自己評価）80%を目指す。	A	A	・9割以上の児童が肯定的な回答をしている。毎年、虎の巻を配布し家庭にも学校の決まりを周知していることが肯定的な意見につながっている。	
○体を鍛え最後までやりぬく子	健康への関心と実践力を高める	体力の向上を目指す	健康的な体作りや体育授業の充実	体幹の強化…正しい姿勢で座ることのできる児童を90%にする。	B	B	・「授業中は、正しい姿勢で学習している」について、児童の約8割が肯定的に捉えているが、保護者の回答では、5割が肯定的に捉えておらず、児童とのギャップがある。	・背中が丸くなっていたり、斜めに座っている子もいる。 ・給食の残菜率からよく食べていることが分かる。
			食育の推進	給食指導を通して食育を推進し、好き嫌いをしないで、食べようとする児童を80%にする。	B	A	・給食ステーションからの残菜率から子供たちが給食をよく食べていることが分かる。また、どの学年も肯定的に回答している児童が8割を超えており、給食指導を通して、バランスよく食事をしていることが分かる。	

達成状況の指標 A: 90%~100% B 80%~90% C ~80%